

1985年6月9日

京都市埋蔵文化財調査センター

『栗栖野瓦窯跡発掘調査現地説明会資料』

調査地 ---- 京都市左京区岩倉幡枝町665-28

調査面積 --- 約 700m<sup>2</sup>

調査期間 --- 昭和 60 年 4 月 1 日  
                  ~ 6 月 30 日

調査主体 --- 京都市埋蔵文化財調査センター

○栗栖野瓦窯跡

栗栖野瓦窯跡は、京都市左京区岩倉幡枝町に設けられた平安時代の官営の瓦窯跡群である。

窯跡の総数は40基以上あったものと考えられており、現在、群中の一角が国の史跡に指定されている。これまでに多数の瓦類や土

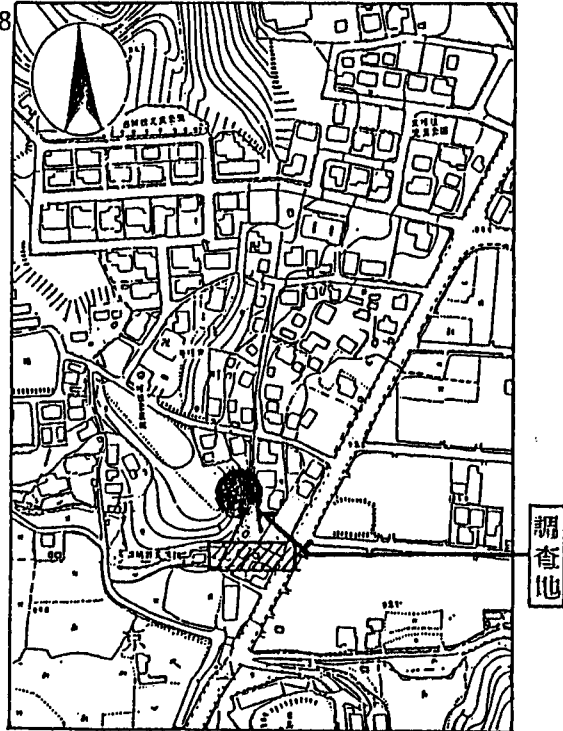
器類が出土しており、特に瓦に緑釉をかけたものや、「木工」・「栗」などの銘をもつ瓦はひろく知られている。なお、この「栗」銘をもつ瓦は『延喜式』木工寮記載の「栗栖野瓦屋」と一致するものである。

この「瓦屋」で生産された瓦は、大内裏をはじめ平安京内外の寺院から多数出土している。

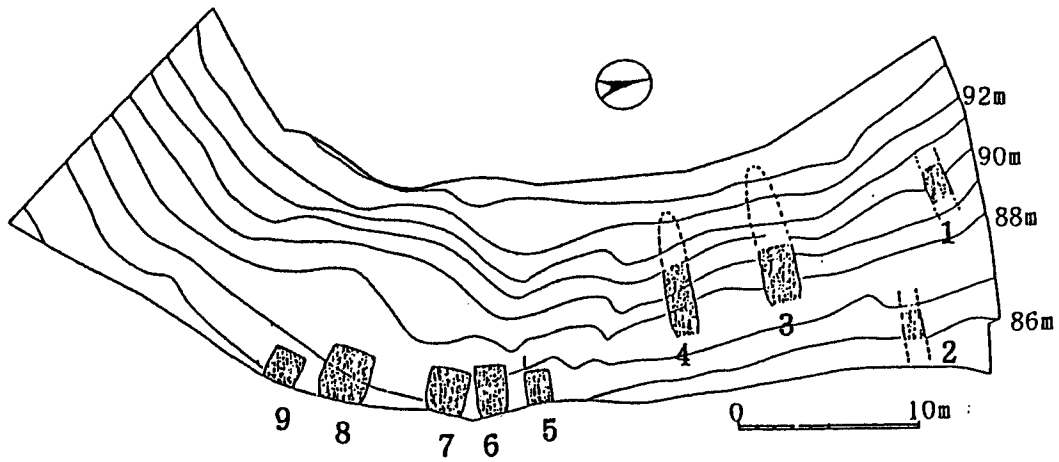
○調査経過

史跡栗栖野瓦窯跡の北隣りで開発が予定されたため、所有者と協議を行い、4月/日から発掘調査を開始した。

敷地東側の道路断面により、7号窯・8号窯は確実に窯跡として認識されていたが、それ以外は未発見のものである。なお、調査以前に磁気探査による窯跡の位置確認作業



(調査位置図 1/5000)



窯跡配置模式図

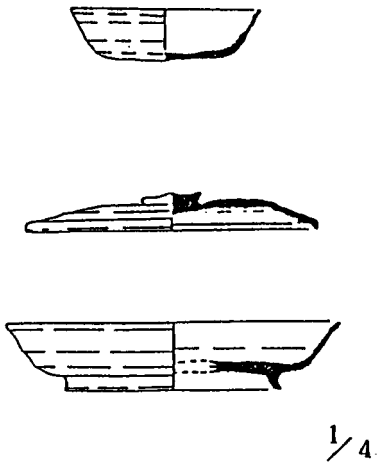
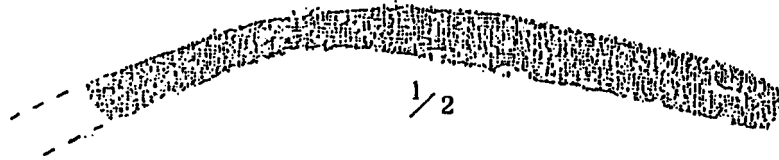
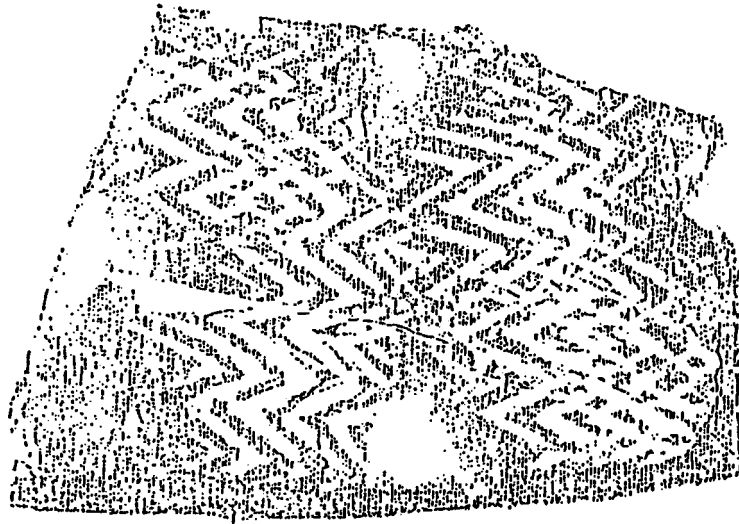
を行ったが、良好なデータは得られなかった。

発掘調査によって発見された窯跡の総数は9基であり、その内訳は 窰 (アナ) 窯 (登り窯) 4基と、ロストル (焼成台) 式平窯 5基である。

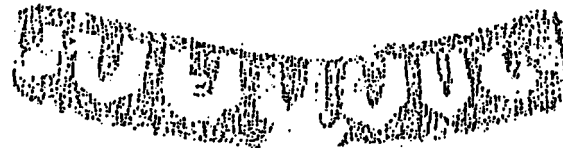
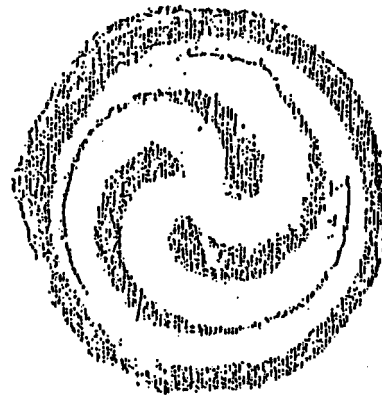
○遺構・遺物

- |          |                               |
|----------|-------------------------------|
| 1号窯 (窰窯) | 時期 ---- 平安時代前期                |
|          | 規模 ---- 残存長 2m 幅 1.2m         |
|          | 出土遺物 --- 緑釉陶器の素地 (キジ) ・ 瓦     |
| 2号窯 (窰窯) | 時期 ---- 平安時代前期 (?)            |
|          | 規模 ---- 残存長 1.5m 幅 1.2m       |
|          | 出土遺物 --- 須恵器 ・ 瓦              |
| 3号窯 (窰窯) | 時期 ---- 奈良時代前期                |
|          | 規模 ---- 全長は斜面上部に続くため不明 幅 1.7m |
|          | 出土遺物 --- 須恵器 ・ 瓦              |

3号窯出土  
平瓦拓影



3号窯出土須恵器・瓦



8号窯出土瓦

< 出土遺物 >

- 4号窯（窖窯） 時期 ---- 奈良時代前期  
 規模 ---- 全長は斜面上部に続くため不明  
 出土遺物 --- 瓦
- 5号窯（平窯） 時期 ---- 平安時代後期  
 規模 ---- 残存長 1.6m 幅 1m ロストル2本  
 出土遺物 --- 瓦
- 6号窯（平窯） 時期 ---- 平安時代後期  
 規模 ---- 残存長 2.3m 幅 1.3m ロストル3本  
 出土遺物 --- 瓦
- 7号窯（平窯） 時期 ---- 平安時代後期  
 規模 ---- 残存長 2m 幅 1.7m ロストル3本  
 出土遺物 --- 瓦
- 8号窯（平窯） 時期 ---- 平安時代後期  
 規模 ---- 残存長 3m 幅 1.5m  
 出土遺物 --- 瓦
- 9号窯（平窯） 時期 ---- 平安時代後期  
 規模 ---- 残存長 1.6m 幅 1.1m  
 出土遺物 --- 瓦

以上9基の窯跡が発見されたが、なかでも4号窯は、瓦の窯詰め状態で見つかった数少ない例である。また8号窯の残存状態はきわめて良好で、複雑な形をしたロストル式平窯の構造がよくわかるものである。